

# 郷土の偉人大澤竹次郎について

## わが国の家畜解剖学に多大な貢献



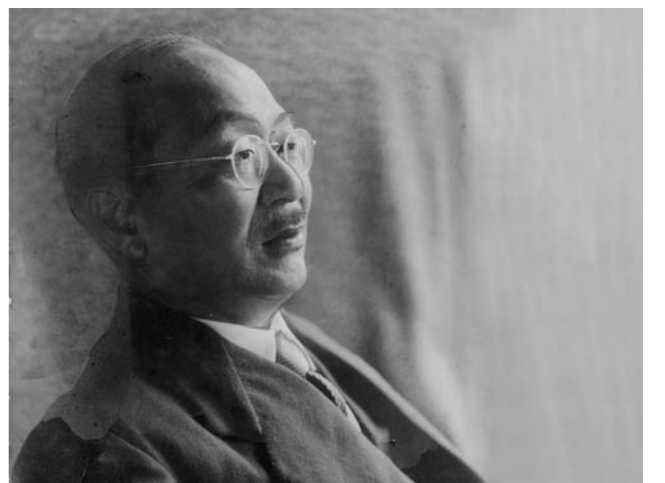
藤原 米光 議員 (明和会)

わが国の家畜解剖の祖である大澤竹次郎は、明治14年、市内大瀬川に生まれ、8歳ごろまで大

瀬川に住み、以後、北海道に渡り苦学の末、札幌一中から東北大学に入学生、東京大学に編入。卒業後は、同大学の助手、講師となり、家畜解剖学の研究に取り組んだ。東京農工大学等の教授となり、日本家畜解剖学の基礎を築くとともに、多くの研究

者を育成した。昭和42年には、勲三等瑞宝章を受章している。家畜解剖学の祖である大澤竹次郎は、花巻の偉人に値すると思うが所見を伺う。  
A(まちづくり部長) 大瀬川地区では、地域が主体となって地域の魅力や郷土学に取り組みしており、

素晴らしいことである。大澤竹次郎氏は、著書である「家畜規範」が、家畜解剖学の教科書として使用されるなど、わが国の家畜解剖学の基礎を築いた方である。その後、麻布獣医科大学の教授や同理事長などを歴任。解剖学の理論を系統的に組み立て、教育に取り入れた功績は大きい。こうした功績を考えると、郷土の偉人の一人として認識している。



わが国の家畜解剖学に多大な貢献をした大澤竹次郎氏

## 震災対応で県と市の分担は

### 連携を図りながら支援体制強化



阿部 一男 議員 (平和環境市民クラブ)

震災の停電で多数の避難所が機能しなかった。発電機設置等、市総合計画を見直すべき。救援物

資輸送、避難者住宅確保、被災地への市職員派遣等、県との役割分担を伺う。  
A(政策推進部長) 災害状況に応じた指定避難所の見直しを図り必要な設備体制を講じるとともに、地域防災計画への反映を図る。避難者へ救援物資の提供や生活の場の確保

と受け入れなどを行うほか、県と連携を図りながら、被災地へ職員を派遣している。  
福島第一原発事故  
福島第一原発事故で①地域防災計画に原発事故と放射性物質災害対策を含めること、②空気線

量計調査結果を市民に公表し基準値以上は適切な対応をすること、③放射性物質から、米、リンゴ等農産物の安全のため国に検査を求めるとを伺う。  
A(農林水産部長) ①県の防災計画との整合性を図る必要から、その動向を注視しながら反映していく。②精度の高いデータとして、県が実施する測定結果を公表するとともに防災計画への反映を検討する。③農業団体と連携し国へ要請している。



大震災後、市内に避難所が設置されました(市民体育館)

# 障がい者福祉の向上について

## 不利益な取り扱いの解消策推進



小原 茂明 議員 (花巻クラブ)

先の12月岩手県議会において、障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手県づくり条

例が、全国で3番目に可決制定された。これまでの障がい者に対する理解が、徐々に深まる中で、依然として差別意識や社会参加を妨げる障壁となっていること等を解消するために、住民がお互いに権利を尊重し合いながら地域づくりを推進するこ

とは、障がい者福祉向上に大きな役割を果たすものと期待する。本条例の評価と役割をどうとらえているか伺う。  
A(市長) 本市の役割については、本条例の2つの基本理念、すなわち障がいのある人が地域社会を構成する一員として、

あらゆる分野の活動に参加する権利の尊重、そして、不利益な取り扱いの解消のため、障がいについての理解を深めることとなっている。この理念を尊重して、次期「障がい者計画」において、不利益な取り扱いの解消に向けた施策を含め、障がい者のニーズを把握しながら、計画策定に努めていく。



県障がい者スポーツ大会開会式

## 花巻市環境基本計画の推進体制

### 環境保全行動の市民は92・8%に



照井 雄一 議員 (明和会)

21世紀は環境の時代と言われている。昨夏の猛暑、今冬の豪雪、そして今回の地震に津波。まさ

に自然の猛威を見せつけられた思いだが、今後、人類の生きる道は、自然との共生以外にはない。平成20年策定の環境基本計画によれば、行政・企業・家庭の役割を規定しているが、計画の進捗よく状況について伺う。  
A(市長) 市は、廃食用

油によるバイオディーゼルの燃料化や住宅用太陽光システム導入、集団資源回収、子どもたちの水生植物調査による貴重な動植物保全に努めている。また、花いっぱいコンクールや環境保全美化団体の表彰を展開している。市民アンケートで自然環

境を守る行動参加は、平成18年度90%、22年度は92・8%である。  
中心市街地活性化策  
市街地の活性化や文化活動の拠点として期待される、まん福エセナ、新興製作所の跡地利用は、A(まちづくり部長) まん福の利用は地域関係団体と協議。エセナは未検討。新興製作所は「こども」の城候補地として検討中だが関係団体等から意見を聞きながら進める。



小学生による水生生物調査